

療養環境研究会シリーズⅡ 第2回オープンワークショップ議事録
「ベッドまわりの環境設定」

日時：2008年12月5日（金）18:30～20:30

場所：船橋市立リハビリテーション病院（千葉県船橋市夏見台4-26-1）

司会進行：横井郁子（東邦大学）

参加者：38名

1. 話題提供「回復期リハビリテーション病棟におけるベッドまわりの環境設定」

嶋亜希（船橋市立リハビリテーション病院看護師）

- ・船橋市立リハビリテーション病院の紹介。
- ・回復期リハ病棟の対象患者、他職種協働によるサービスの提供
「いち早く入院し早期にリハビリを開始する。急性期から在宅復帰に向けた調整を行う。」
- ・麻痺側に合ったベッドの位置を選択など、患者の状態に応じて物品を選択・配置する。
- ・リハビリ訓練のみでなく24時間の生活そのものがリハビリである。

2. 患者にふさわしいベッドまわりの環境設定

池田吉隆（船橋市立リハビリテーション病院作業療法士）

参加者は4グループに分かれ、予め設定された架空患者（2名）のそれぞれにふさわしいベッド周囲の環境を、ディスカッションしながらつくりあげた。実際の（未使用の）病室で、車椅子やベッド柵、リフト、体交枕、ナースコール、離床センサーなどの物品をセッティングし、できあがった状況をデジカメで撮影してグループごとに発表した。最後に船橋リハ病院のスタッフから、それぞれの患者に望ましい環境設定について具体的に紹介された。

質疑応答の内容は次の通り。

- ベッドを壁に寄せている場合、壁側に柵をしないのか？
→基本的にはしない。頭側の両サイドについていることはあるが、柵は最小限とし、1つか2つとしている。
- ベッドを壁に寄せているとケアしづらいのでは？
→必要なときはその都度ベッドを斜めに動かして行っている。両サイドのスペースよりも患者の活動領域を広く確保したい。もし部屋が広ければ両サイドのスペースも確保できる配置が望ましい。
- 限られたスペースで計画する場合、分散トイレがあった方がよいのか、病室が広い方がよいのか？現場ではどちらを優先するか？
→比較は難しいが、患者の生活上、洗面やトイレが分散され近くにあることはリハビリとして活用しやすく、またケア上も都合がよい。

（文責：渡部）